

愛知県常滑市（国内 27 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 1 月 12 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約 1.7 万羽）

発生家きん舎の構造：開放鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（ひな壇式 2 段ケージ（通路 1 本））

2 施設の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、海沿いの丘陵部にある養鶏団地の一角に位置する。養鶏団地の周辺は雑木林や収穫済みの水田に囲まれており、二番穂が出ているところもあった。
- ② 当該農場は、1 月 2 日に発生が確認された今シーズン国内 17 例目発生農場（愛知県県 1 例目）等が含まれる別の養鶏団地から南東に 500m ほどの距離に位置しており、1 月 10 日には近隣の 2 農場（国内 23、24 例目）で本病の発生が確認されていた。
- ③ 当該農場は、開放鶏舎 2 棟（成鶏舎 1 棟 6 鶏舎、育成舎 1 棟 2 鶏舎）、集卵施設、堆肥処理施設（発酵乾燥舎及び堆肥舎）等で構成されていた。
- ④ 発生鶏舎は、成鶏舎を構成する 6 鶏舎のうちの 1 つであり、発生鶏舎は国内 23 例目農場の発生鶏舎と境界を挟んで正反対に位置していた。また、発生時、成鶏舎 6 棟のうち南端に位置する 1 棟は空舎期間中であった。

3 通報までの経緯

- ① 発生鶏舎（通報時約 450 日齢）では 2,500 羽の採卵鶏が飼養されており、通常の死亡羽数は 1 日当たり 1～2 羽程度であったとのこと。
- ② 1 月 11 日の朝の見回り際、発生鶏舎において飼養鶏 6 羽がまとまって死亡しているのを確認したため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。農場主によると、家畜保健衛生所の職員が到着するまでに計 12 羽の死亡鶏が確認され、その他 6 羽の死亡鶏は発生鶏舎内で散在していたとのこと。
- ③ 調査時、農場内の死亡鶏は既に殺処分が完了していたため、異常鶏の分布状況を確認することはできなかったが、農場主によると、育成舎を含め、他の鶏舎の鶏には特段異状は認められなかったとのこと。

4 管理人及び従業員

- ① 当該農場には、農場主を含め従業員が 8 名おり、農場主と従業員 1 名で鶏舎管理及び除糞作業を行い、残りの 6 名は鶏舎内での集卵や鶏卵出荷作業に従事していたとのこと。
- ② 他の農場とは人及び車両等の共有はないとのこと。

5 施設の飼養衛生管理

- ① 当該農場の入口には消石灰が散布され、集卵業者や飼料運搬業者などの外部業者が来場する際は、車両消毒用の動力噴霧器で消毒していたとのこと。入口の関係者以外立入禁止を示す看板は連日の強風のためはずれ、再設置がなされていなかった。
- ② 従業員が農場内に立入る際は、入口付近にある集卵室の一角に設置された更衣場所で農場専用作業着に更衣し、長靴交換、ゴム製手袋を装着しているとのこと。なお、農場主によると、飼料運搬業者等の外部業者については、業者自身で実施していると思われるが、来場時の更衣等の実施状況は確認していないとのこと。
- ③ 従業員が鶏舎内に立入る際は、各鶏舎近くの倉庫で手指消毒を行い、倉庫に保管してある各鶏舎専用の長靴を持って鶏舎へ行き、鶏舎入口で履き替え、鶏舎入口に設置した踏込消毒槽（逆性石鹼及び石灰水）で靴底消毒を実施しているとのこと。各

鶏舎では手指消毒用スプレーは設置されていなかった。

- ④ 農場入口には消石灰が散布されており、不定期に散布を行っているとのこと。
- ⑤ 当該農場と隣接する 23 例目農場との境界には、23 例目農場が設置した高さ 2 m の厚手のシートが張られていた。
- ⑥ 各鶏舎は、全体的に防鳥ネット（一辺 2 cm 角）が設置されていたが、一部、網目が粗い箇所（一辺 4 cm の亀甲金網のみ設置）が確認された。鶏舎屋根には野鳥等が侵入可能と思われる破損箇所、鶏舎扉の下部には隙間（4 cm × 100 cm 程度）が確認された。
- ⑦ 飼料タンク上部には蓋が設置されており、閉鎖系ラインで鶏舎内に繋がっていた。
- ⑧ 給与水には、共同ポンプ場の消毒済の水を引いて使用していた。
- ⑨ 集卵は手作業で行っており、トレーに並べた後、農場入口付近の集卵庫まで運び、集卵業者が毎日来場して集荷していたとのこと。
- ⑩ 死亡鶏は、毎日の見回り時に回収し、鶏舎内で一時保管後、堆肥処理施設（発酵乾燥舎）内の堆肥に混ぜて処理していたとのこと。堆肥舎には防鳥ネットが設置されていたが、小動物が侵入可能な隙間が確認された。
- ⑪ 廃棄卵は、鶏舎内に堆積した鶏糞に混ぜて処理しているとのこと
- ⑫ 鶏糞は、ケージラインの下に堆積させ、小型重機を用いて鶏舎外に搬出していたとのこと。搬出頻度は週に 1 回、6 棟のうちいずれかの鶏糞を搬出していたとのこと。その後、鶏糞は堆肥舎で熟成させ、当該農場のトラックで近隣の耕種農家に配布しているとのこと。
- ⑬ 周辺農場で本病が発生して以降、当該農場では、鶏舎内に入出入りする際の長靴の消毒の適切な実施、鶏の健康状態の確認頻度を上げる等の対応を行っていたとのこと。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場周辺ではカラス、ネコ、スズメ、セキレイ等を見かけるとのこと。また、農場内でカラスを見かけた際には、ロケット花火をあげていたとのこと。
- ② 鶏舎内ではネズミ、ネコ、スズメ、セキレイが確認されることがあるとのこと。調査時、防疫作業が開始され扉を開放していたため、鶏舎内で複数のスズメが確認された。

（以上）